

行事の意義を考える 季節の行事「七夕」

第123号 2019年7月8日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

7月の室礼



すくい網：天の川にも見える網飾りは、全ての人の迷いをすくって
下さるとも言われます。

朝顔：別名「牽牛花（けんぎゅうか）」とも呼ばれ、「牽牛」は、
「牛を引く」から「彦星（ひこぼし）」にもあたり、ちょうど七夕に
朝顔が咲くと、彦星と織姫が再会できたのだとして、縁起が良い
事とされているそうです。

素麺：天の川や織姫の織り糸に見立てて、七夕に素麺を食べるとい
う説があるようです。

奉書：厄除けでもあり五常の精神（仁、礼、信、義、智）を表した
五色（青、赤、黄、白、黒）の奉書。

季節の野菜：旬の野菜の収穫を祝い感謝する心を込めて。





カグヤが入居しているビルでも短冊飾りを行っています！

●過去のバックナンバー

第120号

むかしの田んぼ__草取り

第121号

季節の行事__嘉祥菓子

第122号

青紫聯芳 (せいしれんぼう)

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>

奥山 子どもの頃、私も色付きの素麺は特別感を感じていました。

宮前 この五行説、世の中すべての物は「木・火・土・金・水」の5つの要素で成り立っているという自然哲学の思想で、その五行を表したものが「五色」であり 魔除けを意味しています。

奥山 深い意味がありますね。他にも謂れはありますか？

宮前 村の災厄を除いてもらうため、棚織津女が機屋（はたや）にこもって、神聖な織物を織って捧げ、天から降りてくる、神の一夜妻になる…という、七夕の由来のひとつでもある「棚織津女」の話もあります。

奥山 以前、さをり織りで織った敷物を室礼で使って頂きましたね！七夕の行事って、家でするよりも学校などで短冊を書いていた記憶があり、七夕のことを知っているようで知らないことに気づかされます。

宮前 ひな祭りや端午の節句のように、七夕も子どもの節句としてのお祝いなんですよ！

奥山 短冊に宝くじが当たりますように！など書いていましたが、本来は子どもの成長を願うものだったんですね。

宮前 型を残すことも、分かっている人は次の代に伝承できますが、それが分からないと、伝承していくのが難しく、今のようになってきたのかもかもしれません。願い事は変わってきていると思いますが、「天の川見れるかな？」とか、今でも日本らしさを感じます。

奥山 確かに、ハロウィンの仮装とは違うものを感じます。

宮前 七夕は「笹の節供」とも呼ばれ、この「願い事を笹に飾る」という風習は、日本独特の文化のようです。笹は昔から邪気を祓う役目があると考えられ、笹が出来る竹は、天に向かって真っすぐと成長していくため願いを届けてくれる、などと考えられていたようです。日本文化が薄れてきたとも言われる今日でも、こうして、沢山の人が行事を楽しんでいるのは、なんだか嬉しいものですね。

奥山 本当ですね。私も短冊に子どもたちの健やかな成長を書き記しました。今回もインタビューありがとうございました。



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、

QRコードからお願いします。